

損益計算書の概要

損益計算書は、事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することにより、その運営状況を明らかにしています。

経常費用	24年度	25年度	増減
業務費	381.4	392.5	11.0
教育経費	19.5	19.2	▲ 0.3
研究経費	21.6	25.9	4.3
診療経費	129.4	135.0	5.6
教育研究支援経費	2.5	2.5	0.0
受託研究等経費	15.9	15.0	▲ 1.0
人件費	192.5	194.9	2.4
一般管理費	10.4	13.6	3.2
財務費用	3.9	3.8	▲ 0.2
雑損	0.1	0.0	▲ 0.1
経常費用合計	395.8	409.8	14.0

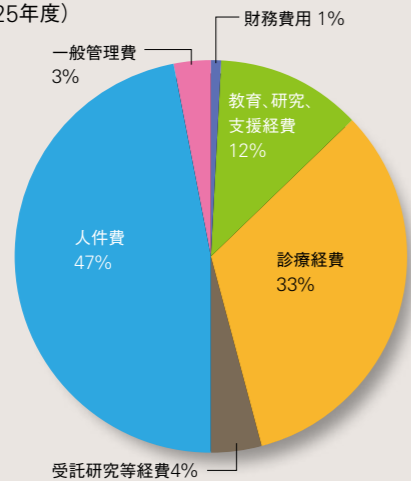
臨時損失	24年度	25年度	増減
固定資産除却損	0.4	0.4	0.0
その他	0.8	0.9	0.1
臨時損失合計	1.1	1.3	0.2

当期総利益	24年度	25年度	増減
当期総利益	10.9	4.9	▲ 6.0

注) 単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計は一致しません。

経常費用構成(25年度)

経常費用合計
409.8億円



【経常費用の概要】

- ・費用は、人件費が全体の約5割を占めています。
- ・診療経費は診療報酬獲得のために要する経費で、主に医薬品や診療材料にかかるものです。25年度は5.6億円増加していますが、附属病院収益の増加に伴うものです。
- ・人件費の増は、看護環境充実等による増加や、非常勤教職員の増加によるものです。
- ・一般管理費の増加は、立体駐車場新営に伴う埋文調査等による修繕費の増加や、電気料の増加等によるものです。

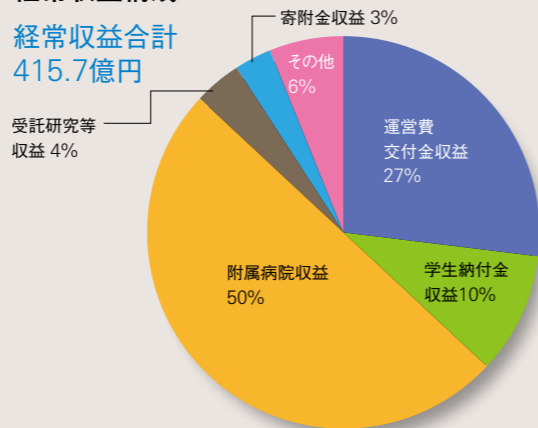
経常収益	24年度	25年度	増減
運営費交付金収益	115.3	112.8	▲ 2.5
学生納付金収益	41.2	41.4	0.2
附属病院収益	202.4	208.8	6.4
受託研究等収益	16.7	15.1	▲ 1.6
施設費収益	1.2	1.5	0.3
補助金収益	3.5	3.8	0.3
寄附金収益	9.2	13.1	3.8
資産見返負債戻入	11.5	13.7	2.2
財務収益	0.1	0.1	0.0
雑益	5.9	5.4	▲ 0.5
経常収益合計	407.2	415.7	8.5

臨時利益	24年度	25年度	増減
徴収不能引当金戻入	0.1	0.0	0.0
その他	0.6	0.3	▲ 0.3
臨時利益合計	0.7	0.4	▲ 0.3

目的積立金取崩額	24年度	25年度	増減
目的積立金取崩額	0.0	0.0	0.0

経常収益構成(25年度)

経常収益合計
415.7億円



【経常収益の概要】

- ・収益は、附属病院収益と運営費交付金収益で全体の約8割を占めています。
- ・運営費交付金収益は、大学改革促進係数(△1.3%)により毎年減少しており、また退職手当等の特殊要因経費も減少しているため、2.5億円の減となっています。
- ・附属病院収益は、手術件数の増加や新たな入院基本料等加算の取得による入院基本料の増加等により6.4億円の増加となっています。

政状態及び運営状況についてご理解いただけるように努めることが重要な責務の一つと考えております。

この財務レポートは、徳島大学の現在の財務状況をできるだけ分かりやすくお伝えすることを目的として、平成25事業年度財務諸表をもとに作成しました。

平成16年4月、本学は他の全ての国立大学と同様法人化し、国から独立した経営体としての運営を行うこととなり、本年度(平成25年度)で法人化後10年が経過しました。

平成25事業年度の徳島大学は、附属病院収益や寄附金収益等の増加、業務の効率的な実施などにより利益を計上することができました。一方で、他の国立大学法人と同様、徳島大学の財政基盤の多くは運営費交付金等の国からの補助で支えられておりますが、その運営費交付金については、法人化翌年の平成17年度から毎年減額されております。このことは徳島大学の財政基盤が毎年厳しくなることを意味しており、引き続き安定した経営を行うために、自己収入の増加及び競争的資金の獲得に努めて行くことが重要であると考えております。

貸借対照表の概要

貸借対照表は、決算日における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

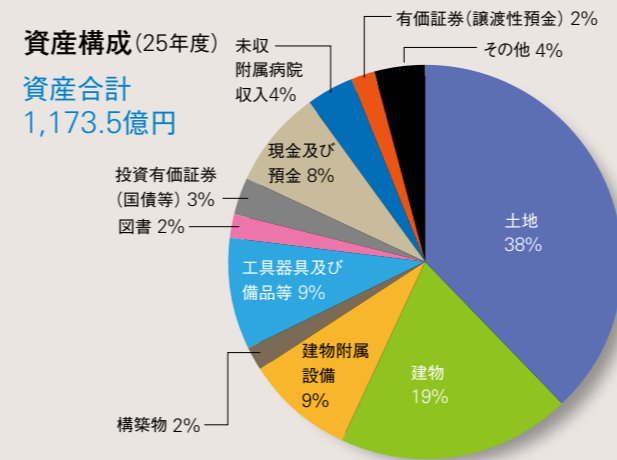
資産の部	24年度	25年度	増減
土地	448.2	448.2	0.0
建物	215.7	226.9	11.2
建物附属設備	94.1	100.7	6.6
構築物	15.5	22.3	6.8
工具器具及び備品等	91.7	102.2	10.5
図書	29.0	29.0	0.0
投資有価証券(国債等)	32.7	33.7	1.0
現金及び預金	76.9	92.7	15.7
未収附属病院収入	42.1	41.3	▲ 0.8
有価証券(譲渡性預金)	60.0	25.0	▲ 35.0
その他	23.1	51.7	28.6

資産合計	1,129.1	1,173.5	44.5
------	---------	---------	------

注) 単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計は一致しません。

資産構成(25年度)

資産合計
1,173.5億円



【資産の概要】

- ・土地が全体の約4割を占めています。
- ・建物・建物附属設備・構築物の増は、藤井節郎記念医学センター新営、立体駐車場新営等によるものです。
- ・工具器具及び備品等の増は、病院高精度外部放射線治療装置の購入等によるものです。
- ・現金及び預金の増、有価証券(譲渡性預金)の減は、有価証券の償還や国立大学法人資金共同運用の預け金等によるものです。
- ・未収附属病院収入の減は、主として2月、3月分の診療報酬減(保険請求分)によるものです。
- ・その他の増は、建設仮勘定(病院外来診療棟新営工事等)の増加や、未収金(施設整備費補助金等)の増加によるものです。

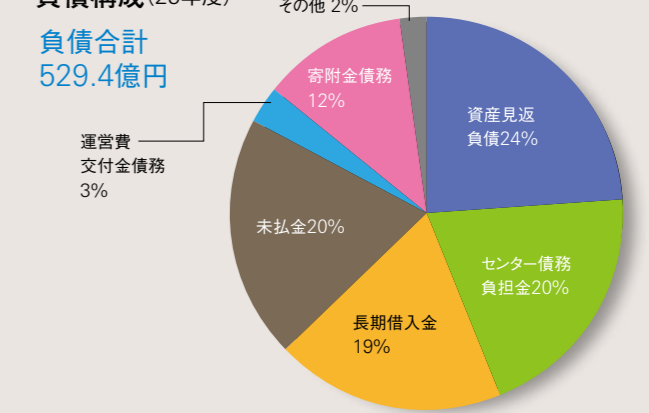
負債の部	24年度	25年度	増減
資産見返負債	92.0	126.3	34.2
センター債務負担金	123.0	107.5	▲ 15.5
長期借入金	78.4	98.8	20.5
未払金	74.2	103.4	29.3
運営費交付金債務	23.1	14.3	▲ 8.8
寄附金債務	77.7	65.8	▲ 11.8
その他	20.6	13.3	▲ 7.3
負債の部合計	489.0	529.4	40.5

純資産の部	24年度	25年度	増減
資本金	467.4	467.4	0.0
資本剰余金	98.5	97.7	▲ 0.9
利益剰余金	74.1	79.0	4.9
その他有価証券評価差額金	—	0.0	0.0
純資産の部合計	640.1	644.1	4.0

負債及び純資産合計	1,129.1	1,173.5	44.5
-----------	---------	---------	------

負債構成(25年度)

負債合計
529.4億円



【負債の概要】

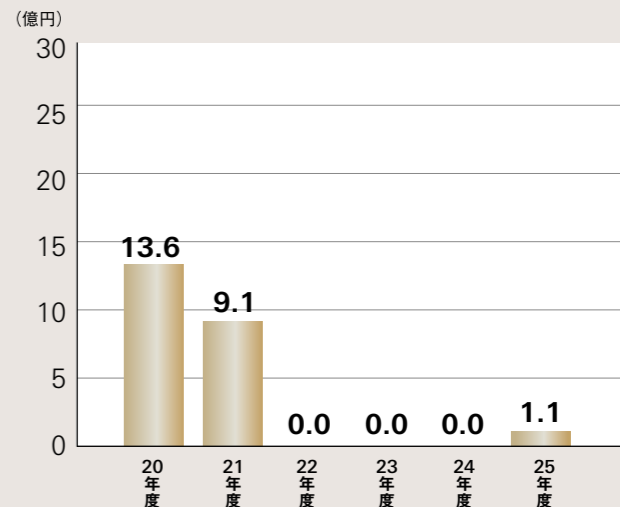
- ・センター債務負担金及び長期借入金が全体の約4割を占めています。
- ・長期借入金の増は、病院外来診療棟のための借入金(24.8億円)によるものです。
- ・未払金の増は、建設仮勘定や工具器具及び備品等による未払金が増加したこと及びESCO事業やリースに係る長期未払金の増加によるものです。
- ・運営費交付金債務の減は、翌年度への繰越額が減少したことによるものです。
- ・寄附金債務の減は、藤井節郎記念医学センターの設置に伴う執行によるものです。
- ※センター債務負担金
法人化以前に財政融資資金を財源として取得した病院の資産等にかかる借入金
- ※長期借入金
法人化後、病院の設備充実のため、国立大学財務・経営センターから借入れたもの

国立大学法人徳島大学

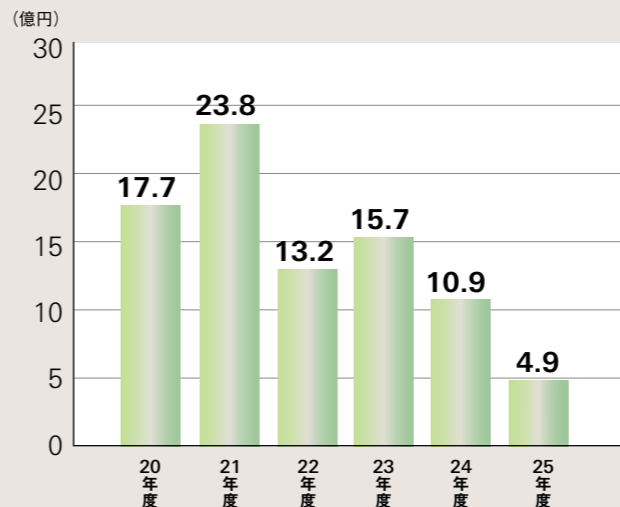
財務レポート

The University of Tokushima Financial Report

目的積立金（承認額）



当期総利益



【目的積立金の概略】

国立大学法人は、利益の獲得を目的とはしておらず、補助金（運営費交付金）を受けて事業を実施する法人であるため、損益均衡の原理が会計制度の基本となっています。しかし、経費の節減、自己収入の増加など経営努力を行った際には利益が生じることになります。当期総利益のうち文部科学大臣の承認を受けた額については目的積立金として積み立てられ、翌事業年度への繰り越し及び使用が可能となります。平成25年度は、平成24年度における剰余金として1.1億円の繰り越し承認を受けました。

この目的積立金は、中期計画で定めた用途に充てることができ、本学の中期計画においては、「決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる」と定めています。

主な施設の整備



（蔵本）立体駐車場新営（平成25年10月完成）



（南常三島）地域連携プラザ新営（けやきホール）（平成26年2月完成）

【主な施設の整備状況】

- 蔵本地区** 藤井節郎記念医学センター新営工事が平成25年8月に完成。
立体駐車場新営工事が平成25年10月に完成。
- 南常三島地区** 学生支援センター改修工事（学生会館）が平成26年3月に完成。
課外活動施設新営工事が平成26年2月に完成。
地域連携プラザ新営工事（けやきホール）が平成26年2月に完成。
- 平成26年度工事** （蔵本）総合研究棟（医学系）新営工事は平成26年7月に完成。
（南常三島）フロンティア研究センター新営工事は平成26年12月に完成予定。
（南常三島）地域創生・国際センター新営工事は平成27年3月に完成予定。
（医病）外来診療棟新営工事は平成27年3月に完成予定。

【まとめ】

平成25事業年度は第2期中期目標・中期計画期間（平成22事業年度～平成27事業年度）の4年目にあたり、本事業年度の徳島大学は、4.9億円の利益を計上していますが、病院収入等の増加、予算の効率的執行による経費の削減などの経営努力による利益のほかに、国立大学法人における固有の会計処理による非資金の項目も含まれております。本学の経営努力によって生じた利益については、目的積立金として文部科学大臣の承認を受けた後、中期計画を踏まえながら効率的な活用を図っていくこととなります。

一方で、本学を含む国立大学法人の財政基盤を支える運営費交付金等の国からの補助については、毎年減額されている状況であり、本学を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。このような状況のもとで、今後とも安定した経営を行うために、引き続き、自己収入の増加及び競争的資金の獲得に努めるとともに「知を創り、地域に生き、世界にはばたく徳島大学」として、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたり、その充実と不断の見直し・改善を進めて参りますので、今後ともご指導、ご支援をよろしく願っています。

地域貢献

国立大で初の「フューチャーセンター」

地域創生・国際交流会館（仮称・建設中）5階に設置

「フューチャーセンター」。初めて耳にする言葉だという人が多くかもしれませんが。欧州発の取り組みで、社会課題の解決やイノベーション創造の場として注目されています。

1996年、スウェーデンのルンド大学教授（当時）で新パルクラブ創始者のレイフ・エドビンソン博士により提唱されました。世界で40カ所以上、日本でもすでに40カ所以上に設置（または実践）されるまでになっています。

ポイントは3つ。①「未来を創る」という形で社会創生、イノベーションを推進する。②同じ組織にしながら日頃はつながりのない職員や、国民と政府など出会う機会の少ない関係者を集め、立場を一旦棚上げしたフランクな対話の「場」をつくる。③デザイン思考を取り入れ、組織、地域に隠れた知的資本（インテリジェントキャピタル）を積極的に掘り起す。また、ビジョン、戦略、政策等を具体化し、実践実験を行う。これらのこ



オランダのフューチャーセンター「シップヤード」の視察（2013年5月24日）

とから課題解決の手段、新たな価値の発見／共有に取り組むことです。

言い換えれば、従来の枠組みでは難しい課題解決に対して、多様な性を有する「集団の知恵」の形成とプロトタイプングに向けた真の協働を促進するプラットフォーム

ムがフューチャーセンターです。人々が集まり対話するだけのワークショップとは明らかに異なるものです。

例えば著名なフューチャーセンター「シップヤード」は、オランダ政府の国税関税執行局が所管するものです。職員約3万人の知的資本を最大限に活かすべく、集まってきた職員が税金の集め方や使い方について、場合によっては納税者も交えて、あるべき姿を考える場として活用されています。2011年の年間稼働率は80%。多くの課題が職員から持ち込まれると言われています。

また、シップヤードのみならずオランダ、デンマーク、イギリスなど欧州各地のフューチャーセンターでは、参加者の独創的な発想や対話の質を高めるため、大学の研究室と連携し、心理学的効果を狙った空間設計（スペーステクノロジー）に工夫を凝らしています（写真）

日本は、急速な人口減少により、



大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授
地域創生センター長
吉田 敦也（よしだあつや）



フューチャーセンターの父「レイフ・エドビンソン」と筆者

2050年には6割の地域が無人口化すると予測されています。少子高齢化、環境保全、激甚災害への備え、教育改革等への対処は小手先のことでは解きようがない状況となっています。徳島大学では、こうした問題への対応力を高める新基盤として、国立大学では初の施設として、今年度内にフューチャーセンターを設置します。本

取り組みから地域の活性化やイノベーションが加速され、地域の持続、変化への対応力、グローバル化が進展／飛躍することを願っています。

徳島大学役職員の報酬・給与等の水準公表について

国立大学法人の役職員の報酬・給与等については、国家公務員や民間企業の給与、法人の業務の実績を考慮し、社会一般の情勢に適合したものとなるよう、各法人がそれぞれ支給の基準を定め、総務省の定めるガイドラインに基づき公表を行うことになっています。

徳島大学もその趣旨に沿って、ホームページにおいて、平成25年度に支給した役員の報酬等、常勤職員の給与、職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準（年額）の比較指標及び総人件費等を公表しています。

詳しくは徳島大学ホームページの「大学紹介」→「情報公開・個人情報保護」→「法定公開情報」→「国立大学法人徳島大学の役職員の報酬・給与等について」をご覧ください。

http://www.tokushima-u.ac.jp/_files/00196833/h25kyuyosuijyunkouhyou_2.pdf